

【事業実績】 四感でこけしを感じる学習環境構築に向けたこけし文化のデジタル化事業

蔵王町伝統産業会館（みやぎ蔵王こけし館）〔宮城県蔵王町遠刈田温泉〕

〔取組 1〕 こけしに係るデジタル化

(1) デジタル検討会を開催①

- ・現状のアーカイブ状況、保存状況等の現状把握。
- ・デジタル化、アーカイブ化へ向けた指針のアウトプット。



①デジタル検討会

(2) こけしデジタル素材の撮影・紹介動画を制作

- ・こけし職人の口伝・技術等の写真・動画等で記録撮影し、アーカイブ化する素材の収集②。
- ・今回収集したこけしのデジタル素材を活用し、こけしを紹介するドキュメンタリー系の動画を作成、館内展示に活用③。



「こけしチャンネル」にて動画配信

https://www.youtube.com/playlist?list=PLjC_5V2mj5sVbWpFuOdcFBHRDqcoz3X50

「遠刈田 こけしチャンネル」で検索。

動画視聴回数：322回(23/ 3/31 現在)



③こけしチャンネルにて動画配信

(3) こけしの本を制作

- ・こけし紹介動画のオンライン面からと合わせ冊子のリアルな面からの反応を伺えるように「こけしの本」を制作④。全世代の方に受け入れられるよう若手デザイナーに制作を依頼。
- ・遠刈田温泉宿泊施設 12 施設及び町内観光施設 10 施設にて配布。
- ・仙台市内にて開催の伝統工芸品展にて配布⑤。来町した観光客だけではなく町外からの誘客を目的に実施し、「こけしの本」をキッカケとして入館者数の増加に繋げる。

入館者数の増加

642名(22/3) ⇒ 1,056名(23/3)
1.6倍↑



⑤「こけしの本」配布



④こけしの本

〔動画や冊子を受け取った方からのコメント〕 「みやぎの伝統的工芸品のある暮らし展〔主催：宮城県 2023/3/14-19〕にて」

- ・人とこけしを主役にしたことで親しみやすい。こけしに親しむ写真が実際にあることで、どうやってこけしに接すれば良いかイメージが付きやすい。
- ・かわいくまとまっていて見やすい。女子っぽくてとってかわいい。友だちとかにも配るよう複数冊持って行きます。
- ・若い人だからこそ思いつくようなアイデアがたくさんあって、見ていて面白かった。
- ・小さなこけしを持ち歩いて旅をすることも流行っているので、新しいアイデアがこけしの可能性を広げていく。

〔取組 2〕 博物館相当施設を見据えた展示改革

(1) 展示改革検討会を開催

- ・博物館相当施設への昇格を目指し、展示レイアウトの変更方針、レイアウト案の検討。特に、若い世代がこけしに興味を持てるよう学生の参加を得て行う⑥



⑥大学生視点で課題の洗い出し

(2) こけし及びこけし館の課題を洗い出し (協力：東北芸術工科大学コミュニティデザイン学科矢部寛明ゼミ)

- ・ゼミ生の意見をもとにしてこけしの課題を洗い出し。
- ・「正しい情報」「知的好奇心を満たす知識」の提供、「若い世代へのアプローチ」についてフィードバックをもらう。

〔参加者 東北芸術工科大学 ゼミ学生からのコメント〕

- ・「こけし」は何なのか? 「こけしは怖い」「扱い方」「見分け方見方が分からない」「こけし館のターゲットは誰か?」「作っているところを見たい」「展示に動きがない」「アテンドが無いとわからない説明が少ない」「体験があると楽しい」という意見をもらう。

〔取組 3〕 体験プログラム検討

(1) 体験プログラム (教育プログラム構築) 検討会を開催

- ・地元の遠刈田小学校において校長教頭先生と共に 2023 年度の学校教育プログラムを協議⑦。

(2) 地元の小学校における 2023 年度教育プログラムを構築

- ・地元の遠刈田小学校において 2023 年度の学校カリキュラムの中で正式に導入することの合意を得る

地元の小学 4 学年 伝統工芸を学ぶ教育プログラム計画 1 本⑧]

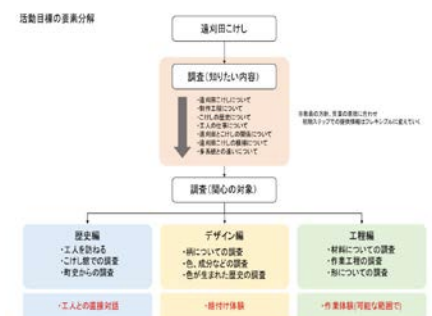
- ①歴史編…工人との直接対話を通じた学び
- ②デザイン編…絵付け体験の学び
- ③工程編…制作作業体験の学び



⑦地元小学校校長教頭との協議

〔遠刈田小学校 校長先生からのコメント〕

- ・地域産業である「遠刈田こけし」を児童それぞれが多角的な視点から「自ら調査し、自ら課題を設定し、自ら解決を図る」内容であり、単一カリキュラムが多く存在する小学校教育においては先進性の高いプログラムである。
- ・新型コロナにより児童たちの学外での発表の場が著しく減っている上でも、「学外での発表を行う」要素があり助かる。
- ・次年度で実際に運用をしながらブラッシュアップを互いに行いたい。



⑧地元小学校との教育プログラム

【取組 4】 活動全体の振り返り

(1) 評議会を開催 ⑨

- ・本事業の全体の基本方針を協議。
- ・事業全体の振り返り。2023 年度の事業方針を協議、決定。
- ・令和 4 年度は動きのある展示を目指し、デジタルサイネージを活用した動画解説を展示に取り入れる。
- ・これまでは数を並べるだけだった展示に動きと深みを加える。令和 5 年度は、実施例が多くない体験型展示として、プロジェクトマップ技術の導入と活用し、さらなる体験と感動を提供していく。



⑨評議会

〔評議員 松田 明彦 氏からのコメント〕

- ・開館以来博物館としての活動が少なかったが、初めて地域のさまざまな組織と連携することを通して、地域問題の抽出と解決すべき課題の設定に取り組むことができている。
- ・カテゴリーメイク型のリポジショニングを通して、新たなこけしのニーズの創出による地域問題解決としての伝統産業のリブランディングも企図できる可能性も見えてきている。この動きを継続して活性化させていきたい。